



「ぶどう」ちぎり絵  
片山 富子さん(有漢町有漢)



「無我」書道  
井上 明彦さん(備中町平川)



「ゴルフバック」レザークラフト  
原田 豊子さん(成羽町下原)

## ミニ★トピックス



### 天然記念物 巨大オオサンショウウオ

10月17日午前6時、玉川町玉の高梁川で、全長110㍍のオオサンショウウオが同所の渡邊光治さん(72)と吉村修さん(52)所有のカニ網に掛かりました。胴回り50㍍、体重1.5㍏。渡邊さんは「40年漁をしているが、まさかこんなところにいるなんて。とにかくびっくり」と捕獲時の様子を話されます。このオオサンショウウオは、同月20日、捕獲した付近に放されました。



「福寿」竹細工  
石田宏一さん(玉川町玉)

## 作品の募集について

- 【文芸】短歌、俳句、川柳など  
【作品】絵画、工芸品、町の風景写真など
- 自作の未発表作品で、一人一作品とします。
  - ギャラリーの作品については、その写真をお送りください。  
(撮影が困難な場合は、ご連絡ください)
  - 住所・氏名・電話番号・作品の場合はタイトルを明記のうえ、お送りください。
- ※締め切り掲載号の前日の末日(必着)

- 【送り先】〒716-8501(住所不要)  
高梁市役所企画課公聴広報係
- ※応募多数の場合は、紙面に掲載できないこともありますので、あらかじめご了承ください。  
※提供いただいた写真等は返却できません。
- 問い合わせ 企画課公聴広報係 ☎0210  
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp

# 市民のページ

## 文芸たかはし

(敬称略)

### 短歌

初霜を破りて清し白菊を手折る躬恒の手先は寒し

梅野 八郎(松山)

吹く風の秋めく今朝の狭庭辺に残りの花の色深める

小野はる恵(原田南町)

仲秋の山は紅葉に綾錦野に柿たわわつわぶき揺るる

田中 弘子(川上町領家)

ふる里の背戸の富有柿の高枝に柿は熟れても子等は帰らず

平 初音(高倉町田井)

山小屋やトタンを叩くドンダリの音も淋しき過疎の夕暮れ

宮本 宮吉(川上町七地)

晴れの国他県からのきらめきを力のかぎりたたかいたたう

森崎 道子(宇治町宇治)

### 俳句

秋晴れにひこ雲見あげ夢旅路 結城 成子(宇治町宇治)

### 川柳

八十の身に 女のみれん うす化粧 藤井タツ子(備中町西山)

年がより 口にはいれば めがねかけ 吉岡 麻江(鶴寿荘内)

## 地名をよるし



### 十三、日名

国道三三三号成羽橋西詰の日名口から県道倉敷成羽線に入ると古備高原を侵食して流れる日名川沿いに小さな河成段丘面が発達し、両側の急峻な山に挟まれた氾濫原を中心に集落が発達しています。

また、日名川右岸の谷壁を登った高原上や日名川上流で合流する熊谷川沿いなどにも集落が点在している地域が成羽町の「日名」地区であります。「日名」は、「成羽八幡神社旧記」(渡辺家文書)・「成羽町史」に、享祿二年(一五二九)のこととして「成羽之庄六ヶケ村未社定り之事」の中に『日名村には当宮地之丑寅御前を勧請有て丑寅御前大明神を安鎮被申けり』とあり、室町時代には「日名村」だったことが分かります。その後の「寛永備中国絵図」(寛永一五年一六三八)や正保二・三年(一六四一・四二)頃の「正保郷帳」にも「日名村」として村名があげられていて、石高五四五石余と記録されています。

その後、元禄一四年(一七〇一)の頃になると「元禄郷帳」に「日名村」が「上日名村」と「下日名村」の二村に分けて記録されています。

明和三年(一七六六)の「成羽山崎領村々田畑高之覚」(山崎家文書)・「成羽町史」によると「上日名村」五〇三石余、「下日名村」六二〇石余と書かれています。幕末に(嘉永六年一八五三)書かれた「備中誌」には、「上日名村」五〇八石余り、枝村に日名畑、和名手をあげ、家数九六軒、人数五〇〇人として「下日名村」は五六三石余り、家数九四軒、人数四二四人、枝村に渡雁と畑をあげています。

「上日名村」の熊谷川の上流の高原(海拔三三〇m)地域には、明和三年の「前掲書」に「福松新開田畑高一五石余り」と記録された山崎領の新開地だった、福松地区があります。「天保郷帳」には「福松新田一八石余」と記録が見られ、その後明治になって「上日名村」に統合されています(一八八六年「地方行政区画便覧」)。

今では、成羽町大字「上日名」、大字「下日名」となっています。

現在「上日名」、「下日名」の総氏神で成羽八幡神社の地にあつた丑寅御前を勧請したといわれる(「前掲書」)御前大明神(現御前宮)が鎮座しています。宮の参道には、安政二年(一八五五)の常夜燈、頭を角刈りにしたような愛きようのある弘化四年(一八四七)銘の狛犬、境内に立つ安政一三年(一八〇〇)の石燈ろう、県道を隔てたところに御輿の御旅所などが残っていて、栄えていた時代の「日名」の歴史をしのばせてくれています。また、「下日名」の高台には宝永三年(一七〇六)創建と言われる真言宗実相坊があります。

「日名」という地名は、いたるところに見られます。特に広島県、岡山県、島根県に集中して分布しているのです。吉備高原や中国山地などの起伏の多い地形のところでは、日照りが斜面によって差があり、昔から農業生産に影響するために山間では、特に意識され、日名(日南・日向)と日陰(陰地・隠地)の地名で表現されます。どちらも地域の集落の立地条件を示す地名で、「日名」は「日当たりのよい場所(土地)」「南向き斜面」「日に向かう地」という意味で、自然地名気象地名の一つなのです。(文・松前俊洋さん)



上日名(本村)から下日名方面を見る